

自ら求めて学び，自ら考える力を育むN I Eの活用はどうあったらよいか

実践校第1年次 伊那市立長谷中学校 木下正彦

1 本校のN I Eの現状 ※筆者の本校着任後の取り組みについて

(1) 平成19年度

- ①年度当初に社会科学習のオリエンテーションとして、新聞活用の一貫として信濃毎日新聞社主催の「第1回中学生新聞スクラップコンクール」への出品を確認し合った。当初は3学年の選択社会科の生徒に限定しようかと考えていたが、このことを他学年にも紹介したところ、「おもしろそう」「自分たちもやってみたい」等々の声が大きくなり、であれば全校（といても50人であるが）で進めることとなった。本校は平成17・18年度の2カ年にわたり長野県N I E推進協議会の実践校としてN I E（教育に新聞を，新聞活用教育）活動に取り組んできました。その後を受け，生徒に表現力や思考力・批判力をつけさせたいと願い，その具体目標としてこのコンクールへの出品を考えてのことだった。
- ②新聞スクラップの経験がほとんどない生徒には，そのやり方についての説明がかなり必要であった。中日新聞社や毎日新聞社から学校に贈呈された作品集を提示して，テーマ設定から記事の切り抜き方，記事を集積していくときの注意点などの指導を数時間かけてスタートした。
- ③夏休みの初めに4日間集中した時間のまとめ取りをして，作品の制作に励んだ。個人制作ありグループ制作ありでテーマも各種各様であった。社会の諸事象に向けての生徒の興味・関心は多種多様で，表現方法も実にバラエティーに富んでいた。指導する側の私の方が逆に教えられたことも多々あった。生徒も次第に意欲的な取り組みを示し，全校生徒が作品として仕上げた。記事を読み比べたり効果的な写真を見つけ出したりで，そこには自ずとコミュニケーションが成立していった。さらには国語科や美術科の学習成果を駆使したりして，楽しみながら新聞作成に励む姿を確認することができた。
- ④このような経過を経て，お陰様で優秀賞1点を含む計5点の作品が入選し，努力が評価されたことが次年度への意欲づけとなった。参加賞としていただいたスクラップノートに新しいテーマ設定で，日々新聞記事がスクラップされていく。このコンクールに関わり，生徒のニュースに対する関心を高め，作品作りを通して表現力や批判力はもちろんのこと，コミュニケーション能力も向上したように体感した。今時の「中学生の底力」にも偉大なものがあると感じた1年間であった。
- ⑤新聞活用の一貫として，社会科では1～3学年の全定期テストで「時事問題」を出題してきた。文字通り時事的な話題についてテスト前の1～2ヶ月間の国内外・身近な地域の動向に関する出題で，このことにより新聞やテレビ等のニュースに対して敏感になって欲しいという願いからである。生徒は図書館のニュース雑誌や社会科研究室前に不定期な掲示される新聞の第1面を休み時間等に友達と見ながら，出題問題を予想していた。1問1点10問出題の計10点扱いであるが，生徒からは概ね好評であった。新聞やニュースに日常的に親しむ機会とも鳴ったと考えている。

(2) 平成20年度

① 21年度までの2カ年間NIE実践校として認定されたことを受け、全職員にも趣旨や内容等を周知・理解していただき新聞活用の環境整備から取り組んだ。前期5社の新聞配達が10月から、また後期3社の新聞配達が11月からのため3ヶ月間は8紙が届けられることになるため、司書の先生の力をお借りして図書館に「新聞コーナー」を開設した。「比較読み」のためにも8紙の新聞が一覧できるように大机を4つ並べて、1面全体が1度に観察できることとなった。

② 昨年度に引き続き、社会科の学習オリエンテーションでは今年度もスクラップコンクールに出品する旨を確認し合い、更に信毎のものに加えて、後期は中日新聞社主催の「新聞切り抜き作品コンクール」にも出品することとなった。同級生や先輩の表彰に刺激されてのことであったが、各自のテーマ設定など日常的に新聞に関わっての雑談などが増えていったことで、新聞に少しでも興味関心を引き寄せる一つの機会ともなったと思われる。

③ 3年選択社会科の受講生とは夏休み中の8月9日に長野日報社（諏訪市）を訪問し、体験学習を行った。いわゆる進路学習としての職場体験学習ではなく、新聞活用教育としての立場で依頼した。これまでは新聞の読み手としての立場であったが、その新聞記事を取材・編集・掲載するまでの送り手としての新聞記者体験になったことは、生徒にも新鮮な感動をもたらし、実際に新聞社の記者・編集者が使用される機器で世界でたった一つの自分だけのオリジナルの新聞を作成できたことはじつに有益であった。それにしても「見出し」一つを決定するのにも、記事にあった写真を選択するのにも、大変な試行錯誤の連続であったことが生徒には強烈に印象深かったようであった。

④ 本年度は夏休み前には信毎の「第2回中学生新聞スクラップコンクール」作品はほぼ仕上がっていた。昨年度の反省や先輩たちの助言もあり、記事の収集は多くの生徒が日頃からやれていたため、後は如何に記事を取捨選択し、どのような紙面構成をし、どのような見出しを付けるかで、連日グループ内で話し合いが持たれていた。関連記事を図書館の過去の新聞から拾い集めている生徒も少なくなかった。

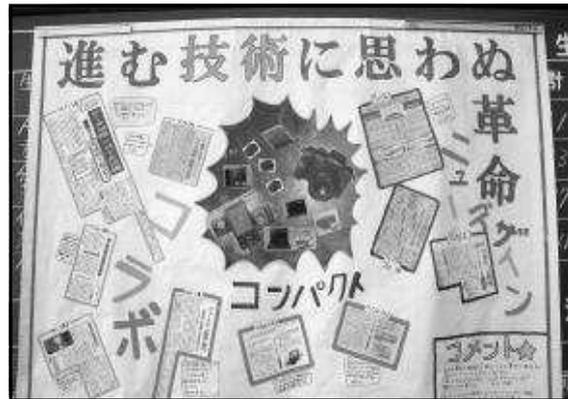


これらの努力の成果もあり、本年度も3年生女子2名の作品（上掲写真）が優秀賞に選ばれ、信毎本社での表彰式に保護者と共に出席し、他の作品にも直に触れたり、アドバイザーの江澤先生のご指導・評価に接して努力が報われたひとときを味わった。

⑤ 10月から全国紙5紙（朝日・讀賣・毎日・産経・日経）が学校に届けられるようになった。生徒も職員も5紙が一同に図書館の大机に並ぶ姿には驚嘆した。NIE実践校ならではの壮観な光景であった。但し、あくまで展示品ではなく、生徒にとっても教師にとっても「世の中の今を映し出している生きた教科書」である新聞を、如何に教科学習や各種の教育に有効利用するかである。日毎に新聞ファイルの厚さが増していくことに多少とも焦りも感じた。学校行事や部活動における各種の大会やコンクールとの兼ね合い等、生徒自身にあまりにも負担はかけられないのである。定期テストが近づくと、新聞活用も疎かになりがちであり、11月からの

後期の2学年選択社会科では意識的に新聞活用に取り組んだ。

- ⑥1月10日が締め切りの「第15回新聞切り抜き作品コンクール」への出品準備もそんな中で慌ただしく進めていった。信毎での作品作りと共通しているとはいえ、新しい試みやテーマ変更等生徒自身にもこれまでの体験から、より上質の作品作りをしようという気概を強く感じた。グループ作品が多く、3年生にとっては進路決定の大切な時期でもあるので、年越しはせず年内に仕上げ送付しようということとなり、日々の授業や受検勉強、テスト勉強の合間をうまく利用して、12月初旬には何とか中日新聞社に持ち込むことができた。その結果、6作品14名の生徒が努力賞を受賞できた。(下記写真はその一例)



- ⑦現在進行形の取り組みとして、日本新聞協会扱いの「HAPPY NEWS 2008」にも応募するため、日々新聞をめくっている最中である。とかく新聞の記事が暗い話題の事件や事故、あるいは夢を持ちにくい現況等を報じている中であって、ホッとする話題や、感動的な秘話等も少なからず散見される。そういった心温まる話題を意識的に見つけ出そうとして、それらを広く紹介するとともに、自分たちも勇気づけられたり、元気づけられればよいと考える。

2 NIEで高めたい力 ※小原友行「2006 NIE学習の理論化に関する研究」より

- (1) 問題の発見力…情報の収集、紹介←新聞スクラップ、比較読み、記事の要約
- (2) 情報の活用力…情報の収集、選択、発信←新聞作り、新聞社見学、新聞記者体験
- (3) 調査の探究力…課題解決のための調べ学習←取材活動、校外での調査学習
- (4) 意思の決定力…日々の生活や体験における活用←ボランティア活動、福祉施設訪問

3 研究の概要

(1) 社会科での取り組み

社会科では、各学年生徒の実態や地理・歴史・公民の各分野の特性と学習内容に応じて、その時々の新聞活用を考え、実践を行った。

(2) 活用のしかた

- ①授業教材や資料として活用する。(資料活用・表現、思考・判断)
- ②授業内容とは関わりなく、社会(時事問題や世の中の動きなど)に対する関心を高めたり、自分の考えをまとめて表現するための題材として活用する。(関心・意欲・態度、思考・判断、資料活用・表現)
- ③新聞そのものの見方・読み方、活用の仕方を身につけさせるために利用する。

※主として「選択社会科」において重点的に扱う。(資料活用・表現)

(3) 授業教材としての活用

①授業の教材として、学習内容に適した新聞記事を教師が予めストックしておく。また、場合によっては生徒の作成した「新聞」や「レポート」なども内容によっては活用させてもらった。

②できるだけ最新のデータが載っている資料として活用する。

③問題解決学習や話し合い学習では、特に広く社会的論争問題を扱った際の資料として活用する。このうち①については、教師が日常的に新聞を読んでおいて、活用できそうな記事の収集に努めた。記事によっては、1回限りのものや何ヶ月もの間活用できるものがあるが、必要な記事や関心の高い記事を見つけたら、その記事にラインマーカーで印をしておき、可能な限りその日の新聞ごと保存するようにしている。どうしても切り抜かなければならない場合は、コピーしてスクラップしておいた。

それ以外に、特集記事や連載記事、一面広告、新聞記事ではないが毎日の広告の中にも教材となるものが多いのでその都度利用した。

例…「選挙公報」「選挙特集」「北朝鮮問題」「政党広告」「市町村合併」「裁判員制度」「人権問題（差別問題）」「社会福祉問題」など

②については、新聞が新しいデータを扱うので当然であるが、中学生にとっては、専門的で難解な語句も多いため、新聞記事をもとに教師が簡略化した説明を加えたり、学習プリントにしてワークシートを作成するなどしてきた。

例…「株価の変動」「国・地方公共団体の財政」「世論調査」「外国為替の変化」「平均寿命」「世界の人口」「環境問題」など

③については、教科書通りの授業構成よりも問題解決学習や調べ学習など、単元を再構成した学習内容の時、また2・3年の選択社会科での特設単元学習やテーマ学習など、学習内容の補充・深化をめざした学習時に、視点や論点などが明確に整理されているため、活用しやすい。

例…「限界集落の課題」「市町村合併問題」「ねじれ国会」「中東和平問題」など

(4) 社会・世の中の動きに対して関心を高めるために活用

社会科では全学年とも、毎時間の授業で最初5分間は生徒が名簿順に「5問ミニテスト」を出題し、地理・歴史・公民の3分野の復習を兼ねると共に、必ず時事問題を取り入れている。その際、できるだけその関連記事が載っている新聞記事も用意してくるようにしている。そして、答えの解説補充として、「今日の新聞から」ということで、教師からも大きな出来事やタイムリーな記事等について説明を加えている。NIEで5社（9月～12月、全国紙＝朝日・読売・毎日・産経・日経）、3社（10月～翌年1月、中日・信毎・長野日報）の新聞が配達される。この期間は選択社会科の教科係が職員玄関の新聞入れから朝図書館に持って行き、各新聞毎にパンチで穴を開け綴じ紐で綴じてくれている。その際せつかく新聞に触れているので、自分が気になる記事の載っている新聞を教師に見せ、教師の解説を聞くことにしている。生徒自身の記事の選択の観点・気づき・感想などを短時間ではあるが確認でき、授業や短学活での話のネタとしても紹介している。紹介されたことで生徒も恥ずかしながらも自分の話題が取り上げられた満足感が感じられるひとときでもある。限られた時間で効率よく、欠かさず新聞に親しむ機会をつくるように心がけている。なお、全学年とも定期テストでも、毎回新聞記事をもとに、「時事問題」を10点分出題している。

(5) 新聞そのものの見方・読み方、活用の仕方を身につけさせるために活用

中学生は生徒会や部活、また習い事などで結構多忙であって、なかなか家で新聞を読む習慣がなく、どの面に何が書いてあるのかさえ、知らない生徒も相当数いる。中学生にとっては、専門的で難解な語句も多いため、まず新聞に慣れ親しむことから取り組んでいる。

(6) 生徒へのアンケート結果からの一考察

後掲の生徒アンケート集計から、本校生徒の新聞に対する意識の一端がうかがえる。約70%の生徒が毎日もしくは時々新聞を読んでいる。また、学年が上がるに従って新聞を読む割合は増えている。このことは、本校がNIEにここ1・2年取り組んでいる成果であると思われる。

他方、全く読まない生徒もいることに注目したい。この面でも両極化が見られるのだろうか。1日に新聞を読む時間については、15分以内というのがじつに約70%と、勉強や部活動・生徒会などで日々忙しく生活している中学生の実態であろう。新聞の読み方については、興味を引かれた記事については読む生徒が多い。新聞を1回で読む時間が短い文だけ、見出しの内容によっては注目していることが分かる。これらは生徒自身の成長にともなう興味・関心の広がりによるものとも考えられる。それは、「興味のある記事」を見てみると、政治や外国の動きや事件・事故、スポーツなどの三面記事・地域の記事がある反面、依然として、テレビやマンガや天気も少なくない。これらから推察してみると、

①生徒の読んでいる記事が、自分に必要とするものに多くは限られている。

②学年が上がるにしたがって読める範囲が広がり、新聞の見方・読み方が分かってくる。

③生徒自身の興味・関心や行動範囲、情報収集の範囲が広がっていく。

といった特徴が浮き彫りにされてくるであろう。

しかし、新聞を読むことの大切さについては、多くの生徒が大切だと考えていて、ここにNIEの一番の成果が表れていると考えられる。中学生にとって、今は新聞を読むことも、新聞の内容を理解することも難しく感じ、必要性もまだまだ少ないが、将来一人の社会人として新聞を読むこと（情報を収集し理解すること）は必要な資質であると強く感じている。そう考えてみた場合、中学生の意識が急激に高くならなくても、新聞を教材として教室に取り入れ、日常的に地道に活用していくことは、長期的には教室と社会（世の中）とを結びつけるたいへん重要な役割を果たすことになると考えられる。

なお、各生徒の家庭で取っている新聞は、予想通り県紙である「信毎」と地域紙である「長野日報」がほとんどである。如何に地元に着している情報を求めているかが分かる。それだけに全国紙5社を含めて計8社の新聞を一同に閲覧できることは希少な機会である。NIE実践校ならではの特典としてこの機会を大いに利用したいものである。図書館に足を運ぶ回数が増えるよう図書の実充とともに、「新聞コーナー」も工夫を凝らして使い勝手のよい情報室として機能させたい。

4 実際の授業から（第2学年 「選択社会科」、5名）

(1) 全校研究テーマ

生徒が友と関わりながら、力が付いたと実感できる授業はどうあったらよいか

(2) 社会科研究テーマ

生徒が自ら課題を持って意欲的に追究を深め、互いに支え合いながら学習を深

める指導はどうあったらよいか

(3) テーマ設定の理由

本校では、平成17年・18年度指定校としてNIE推進事業が始められたが、その後も継続して実践を行ってきたとは言い難く、図書館に2年間の配達新聞が整然と束ねられていたというのが実情であった。ただ国語科や社会科の教科を中心に、道徳や総合的な学習の教材や資料、読み物の一つとして活用し、生徒の興味・関心を高めるとともに、学習内容の理解を助けるなどの一定の役割を果たしていた。

再度指定校としてなった本年度は、毎日の配達された新聞を置いてある図書館の「新聞コーナー」には、朝や昼休み、また放課後など生徒が多く訪れるようになり、教材や学習プリントの作成のために、新聞記事を探す教師の姿も増えている。教室内やその廊下には、切り抜かれた記事がコメントをつけて掲示されるようになった。このように、学校生活の中に新聞は徐々に根付いてきているが、これからはより新聞の活用に工夫を凝らして、新学習指導要領にも示されている各教科の能力の、さらなる育成を目指したいと考えている。

例えば、国語科では(1年)読むこと、「様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けること」、(2年)書くこと、「広い範囲から課題を見つけ、必要な材料を集め、自分のものの見方や考え方を深めること」などである。これまで実践を行ってきた社会科や道徳でも、それぞれに示されている能力の育成を図り、さらには他の教科等へも様々な形で新聞活用の実践が広がっていくようにしたいと考えている。

(4) 新聞活用の基本方針

20年度も昨年度の基本方針に準じて、教科・特活・道徳・総合などの全領域で新聞活用の実践を試行錯誤してきた。その際、下記の点を基本的立場として確認した。

- ①NIEの意向(新聞を「生きた教材」として教育に活用するために、教育現場と新聞社側が協力して行う共同活動)を踏まえた教育実践を進める。
 - i 基本的には新聞を丸ごと使用する。
 - ii 複数社の新聞を有効活用する。
 - iii 教師・学校と新聞社との共同活動である。
- ②各教科・領域の年間指導計画に沿って学習内容に最適の記事があれば活用する。(特別なNIEの時間を設定することは原則的ではない)。
- ③生徒も教師も日常的に新聞に触れる環境づくりを積極的に進める。

(5) 学習指導案

- ①教材名 「僕も私も新聞解説者 ～『元日の新聞』を紹介し合おう～」
- ②指導目標(評価観点)
 - i 複数の新聞を読み比べることができる。(関心・意欲・態度)
 - ii 複数の新聞を読み比べ、その新聞が何を伝えようとしているのかを考えることができる。(思考・判断)
 - iii 自分の分担した新聞記事を、相手にわかりやすく説明することができる。(資料活用・表現)
- ③指導計画
 - i 前時 年末年始休業中の新聞を一通り見た上で、5社の元日付けの新聞を各自が選定し、みんなに紹介するため読み取り内容を確認した。

ii 次時 それぞれが各新聞を読み比べることにより、新聞が何を伝えようとしているのかを一覧表にまとめることができる。

④本時の学習

i 本時の主眼

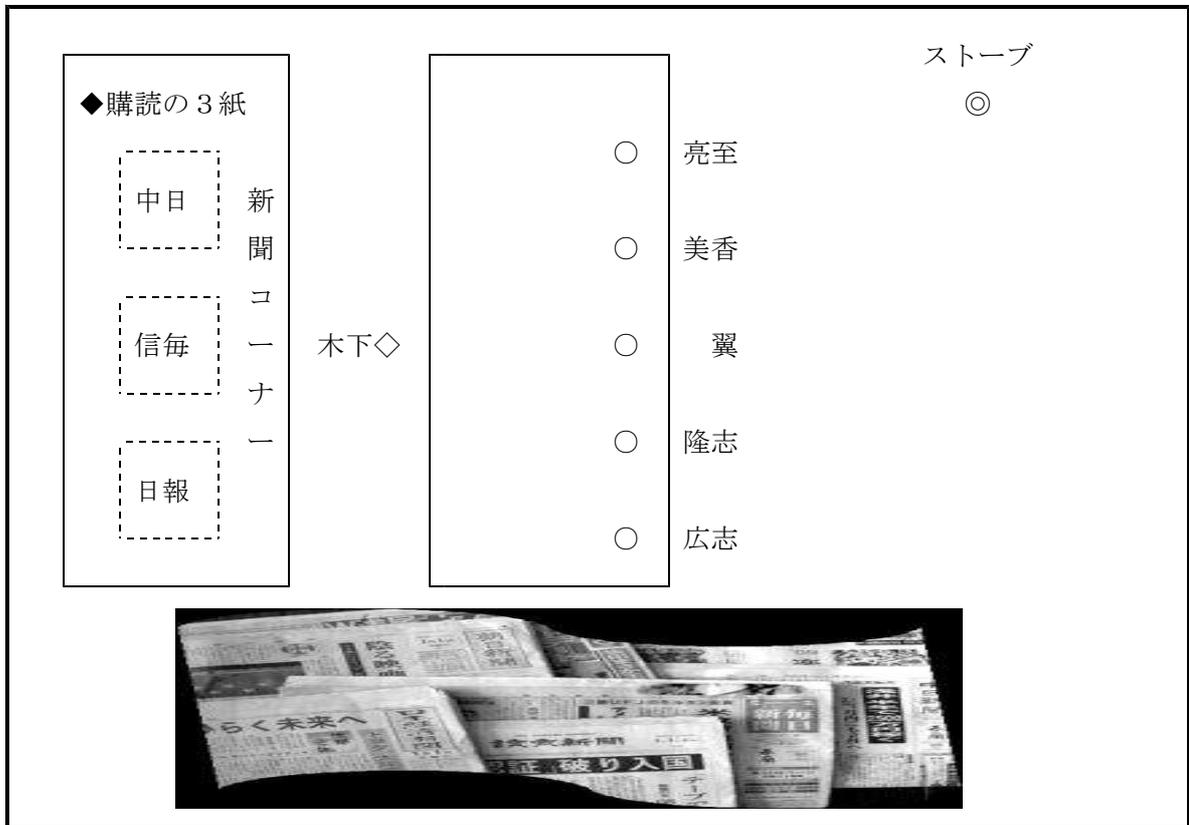
各自が分担した「元日の新聞」を紹介し合い、その内容を共通理解することによって、それぞれの新聞が何を読者に伝えようとしているのかを考えることができる。

ii 展開

段階	学 習 活 動	指 導・支 援	時間	評価方法
つかむ	1 本時のねらいを確認する。	①分担した各自の「元日の新聞」を紹介する準備を確認する。 ← 一覧表を配布する。	15	<ul style="list-style-type: none"> 興味を持って、発表準備をしようとしているか。(観察)
	2 発表例として教師の解説を見聞きし、自分の発表を再確認する。	②教師が実際に解説を師範してみせる。※「中日」・「長野日報」を取り上げる → 一覧表を参照させる。		
深める	3 順番に発表する。 ①亮至…「朝日新聞」 ②美香…「信濃毎日新聞」 ③翼 …「毎日新聞」 ④隆志…「讀賣新聞」 ⑤広志…「日本経済新聞」	③新聞の実際の記事を提示させながら、書き手の思いや意図を指摘させる。 ④各自の発表ごとに質問や感想・意見を求める。その際、発表の仕方よりも記事内容について求める。→ 一覧表へメモをしていくよう伝える。 ⑤発表内容によっては、本日参観していただいている信毎の方への質問もさせてみる。	25	<ul style="list-style-type: none"> どんな記事に対して、どんな理由・気持ちから注目したかその立場が明確か(発表、表現) 自分なりの問題・課題意識が持てたか(質疑応答、ワークシート)
まと	4 本時を振り返り、各自の感想を発表し合う。	⑥新聞の見方・読み方に対して、本時の学習を見返し		

め る	5 次時の学習を確認する。	せ，友達の発表から気づいたことや参考になった点などを自由に発表させる。	10
--------	---------------	-------------------------------------	----

iii 座席表【図書館…校舎 2 階東端】



⑤生徒の様子から

- i 『毎日新聞』を担当した翼君は，都内の落語教室に子どもたちが参加している写真に興味を感じ，その記事を読んでの感想や内容を発表した。それを聴いていた生徒たちは，落語を教える以前に浴衣の着方や挨拶の仕方などの驕的なことを教えられていたことに触れて，「(落語を学ぶ前に)日本人として本来知っておくべきことを教えてくれるのでそれだけ人気があるのではないか」という推論を打ち立てていた。
- ii 『讀賣新聞』を担当した隆志君は，全国各地の「ゆるキャラ」の一覧が掲載されている記事を示した。長野県内では諏訪郡の原村の「セロリン」(原村特産品のセロリよりキャラクターとしている)が紹介されていて，隆志君は解説の中で「ゆるキャラはその土地土地の特産物や歴史的な建物を分かり易く視覚的にイメージできて，一目でその土地の有名なものが分かるようになっている」と伝えた。他の生徒からは「誕生日はいつなの」「長谷の場合は『孝ちゃん』(旧長谷村に伝わる孝行猿に由来している)だね」という具合に話題がより広がっていった。

5 研究のまとめ（成果と課題）

- (1) これまで生徒たちの各種の情報との関わり方を観てくると、テレビにしろ新聞にしろインターネットにしろ、手軽に入手した情報をそのまま鵜呑みにし、そのまま自分の考え・意見としてしてしまうことが多いように感じられた。多くの情報を批判的に読み取り、そこから自分自身の考えや意見を持つことは、現況の社会では特に重要であると考えられる。それだけに「新聞記事の比較読み」は効果的である。同一日の一面記事でも各新聞社によって、扱われ方に違いや軽重が見られ、生徒たちは新鮮な驚きを持つとともに、さらなる疑問を持てたり、書き手の意図を意識する姿勢が徐々にではあるが生まれてきたようにも思う。
- (2) 公開授業ではこのような生徒たちに、表現力や批判力を身に付けて欲しいと願って展開を考えた。とにかくこれまで生徒たちは「あの人が言ったから」というだけで、自分の考えによる意見を表現することができにくかった。新聞記事の紹介・解説を聴いた生徒たちは「〇〇君はそう考えたけど、私はこう思う」という、自分なりの考えを持てるようになってきたようである。さらに、その自分なりの考えや意見を相手に伝えるとき、新聞の記事の表現や説明を参考にして、相手のより分かり易く伝えていけるよう各教科・領域を通じて養成していきたい。
- (3) 図書館に「新聞コーナー」を設置したことで、生徒たちの新聞に触れる機会は増えたが、個々の生徒の新聞の見方や読み方を把握することは困難である。したがって、個々の生徒にどのような手だてを加えてより自己学習力を身に付けさせていけばよいかを、新聞活用を通じ今後探っていきたい。

資料

NIE実践に関わるアンケート

平成20年9月2日・3日実施

1 あなたは新聞を？

①毎日読む	1年 0	2年 4	3年 7	全校 11
②時々読む	5	7	4	16
③ほとんど読まない	4	0	2	6
④まったく読まない	1	2	3	6

2 1日に新聞を読む時間は？

①1時間以上	1年 0	2年 0	3年 0	全校 0
②30分～1時間未満	0	0	1	1
③15分～30分未満	3	0	3	6
④5分～15分未満	1	6	6	13
⑤1分～5分未満	5	5	4	14
⑥0分	1	2	2	5

3 どのように新聞を読んでいますか？

①興味ある記事以外でも一通り目を通す	1年 1	2年 2	3年 3	全校 6
②興味をひかれた見出しは記事も読む	5	3	8	16
③テレビ欄以外も興味をひかれた見出しは見る	4	7	1	12
④テレビ欄以外はほとんど読まない	0	1	4	5

4 あなたの興味のある記事は？

①政治	1年 2	2年 2	3年 7	全校 11
②経済	1	1	1	3
③外国(世界)	4	3	3	10
④事件・事故	4	6	7	17
⑤スポーツ	6	7	4	17
⑥地元(長谷, 伊那市, 南信, 長野県)	0	6	5	11
⑦教育・学校	0	2	2	4

⑧健康	1	0	1	2
⑨趣味・旅行	1	1	5	7
⑩科学	3	0	6	9
⑪読書	2	3	1	6
⑫芸能	4	5	6	15
⑬囲碁・将棋	0	0	0	0
⑭社説・論評	1	0	0	1
⑮コラム	0	1	0	1
⑯投書欄	0	0	1	1
⑰テレビ欄	7	12	10	29
⑱マンガ	5	6	6	17
⑲天気	3	3	6	12
⑳広告	3	3	3	9

5 あなたの家庭で購読している新聞は？

①朝日新聞	1年 2	2年	3年	全校 2
②毎日新聞		1		1
③読売新聞		2	2	4
④産経新聞				
⑤日本経済新聞				
⑥中日新聞	2	1	2	5
⑦信濃毎日新聞	5	9	10	24
⑧長野日報	6	5	12	23
◆スポーツ新聞			日刊スポーツ	1
◆その他	日本農業新聞			1

★「元日の新聞」比較一覧表★

2年 番 氏名

	全 国 紙					ブロック紙	地方紙 (県紙, 地域紙)	
	朝日	読賣	毎日	産経	日経	中日	信毎	長野日報
ページ数						90ページ		32ページ
何部構成・見出し						第1部 第2部 正月 テレビラ ジオ番組 第3部 スポ ーツ 第4部 笑って元 気		第1部 第2部 テレビ・芸 能・新春読 者文芸
一面のトップ記事						汚染米転売 浅井半年で 2500万円 稼ぐ 特集 日本 の選択点 1 ネット カフェ住 民		特集 絆深 めて検証 「伊那市」 合併3年
注目した記事・気になった記事, 面, 見出し, ◆理由						11面 世界覆う水 不足 人口増都市 化気候変動 が拍車 2025年5 5億人に「支 障」も 18面 広告「新聞 力」 中日新聞長 野広告社 ◆エネルギー・鉱物資 源・食料に ついては以 前から不足 は重要視さ れていたが, 水不足も危 機状況と改 めて認識 したから。		2面 成人式の開 催方法市教 委 今年度中に 結論 ◆今の中2 生の成人式 が従来によ うに1/1 に行われる かどうか気 になるから。